

エリソ・ヴィルサラゼ

& 新日本フィルハーモニー交響楽団

Interview

今年2月、エリソ・ヴィルサラゼを、東京音楽大学のレッスン室に訪ねた。

前日、東京ではめずらしく雪が降った。「どこもかしこもおかしな気候よ」とヴィルサラゼは言った。

時代の変化を受けて、クラシック音楽が置かれた現況を嘆くときと似たような表情で。



休符こそは大事なテンション

— スヴァトスラフ・リヒテルが亡くなって、今年でもう20年になるのですね。いまでもよく彼のことを思い出しますか。

「ええ、当然。リヒテルは音楽家としてだけではなく、人間としても、非常に稀有な存在でした。彼が新しい作品に取り組むときには、自分がいまなにをすべきか、ということをはとどうに深く知って採り上げていました。ときどきは私自身と解釈が違うこともありましたが、それにも関わらず、客席で彼の演奏を聴いていると、いつも非常に納得させられるのです」

— リヒテルから授かった示唆や影響のなかで、いちばん大きなものはなんですか？

「仕事に対する真摯な態度でしょうか。妥協はなにひとつできないという、私たちの職業に対する誠実さですね。私は、芸術上のひとつの手本をみたような気がしました。それから、人々を称賛したのも、彼の素晴らしいところでしたね。ピアノだけでなく、他の楽器の奏者、演劇でも舞台芸術でも受け入れ、称賛することができる人でした」

— たとえば、このシューマンのライブCDがその好例です。「今夜エリソが聴かせてくれたほど美しいシューマンを、誰が想像できるだろうか？ 私はこれほどのシューマンを、ネイガウス以来、聴いたことがない」。リヒテルはあなたの演奏をそう称えていますね。

「……。そのときの気分でこんなことを書いたのでしよう(笑)」

— シューマンといえば、ひとつの作品のなかでも目まぐるしい変化がありますね。

「ええ。しかも、その変化がすごくはやく。だから、『クライスレリアーナ』や『ダヴィッド同盟舞曲集』を弾くときも、曲と曲の繋ぎ目は休まず、緊張感を保ってなくてはならない。パウゼの間も、ひとつの作品です。プログラム全体が、ひとつの大きな絵なのです」

— つまり、一貫して緊張感が保たれないといけない。

「もちろん。生徒をみていて残念に思うときがありますが、静寂に注意がいけない。休符こそは大事なテンションです。私は、歌舞伎の“静”のとき、動きがないときの緊張感が、とても好きなのです。すべてが止まっているのだけれど、ものすごく伝わってくるものがあります」



11歳のときに感じた魔法

— 今年11月のプログラムは、新日本フィルハーモニー交響楽団との3曲のコンチェルトです。トリフォニーホールでの前2回の演奏会はリサイタルでしたが、共演者との音楽づくりはまた大きく違いますね？

「まったく違います。協奏曲の場合は、指揮者とオーケストラと、ちゃんとコンタクトができないといけない。共演者との間には、人間的に素晴らしい関係がなくてはね」

— 指揮者のアレクサンダー・ルーディンとは良い関係が築けていますか？

「ええ、何度も共演しています。ルーディンは素晴らしい音楽家ですよ。ピアニスト、指揮者、チェリストとして、すべてにおいてほんとうにプロフェッショナルなのです。数年前には、オール・メンデルスゾーンの演奏会で、前半に私が協奏曲を弾き、そのあと2台ピアノの協奏曲ではルーディンが第2ピアノを演奏して共演しました。彼の指揮でオール・シューマンの協奏曲プログラムも弾いたこともあります」

— 今回のプログラムは、ベートーヴェンとショパン、それからモーツァルトの協奏曲ですね。

「モーツァルトはK.450を弾きます。どうして選んだかって？ なかなか演奏会で採り上げられることがないからよ。二短調やハ長調のコンチェルトとは違って」

— そして、とても難しい。

「ええ。ほんとうに難曲で、演奏されるのは非常に稀です。それから、ベートーヴェンの全協奏曲のなかでもっとも演奏される機会の少ないのが、第2番です」

— どちらも変ロ長調で書かれていますね。

「そう。そして、ショパンのホ短調はとってもポピュラー



(笑)。そういう、前後半で対照的なバランスです。私はとても気に入っていますよ。なにも考えずに、ぼーん！ って出てきたら、素晴らしい組み合わせでした(笑)」

— さきほど、静寂の話をされましたが、その静けさの質はご自身のなかで年々深まっていくものですか、それとも最初から厳然としてあったものですか。

「表現力というのは、経験とともに年々ついていくものですからね。静寂のなかでの表現力というのも大きく変わってきます。ただ、11歳のときに初めてオーケストラと共演して、ベートーヴェンの第3番を弾いたのですけれど、カデンツァからコーダにいくところ、ピアノシモでトリルが続くかにベートーヴェンがつくったあの静寂、そのときに弾きながら感じた感激や感動は、いまでも私のなかに残っています。魔法の世界ですよ。ほんとうに魔法としか思えない、あの静寂は。そして、私はすごく幸せなことに、11歳のときにその魔法を感じる事ができた。幸せなことに、それがいまでも残っているのです。あのときの感覚を、いまでもすごくよく覚えています」

— そんな魔法が今度また起こるといいですね。

「ええ、起こるといいわよね……」

インタヴュー・文／青澤隆明(音楽評論)

2017

11.23 (木・祝) 15:00 開演 (14:30 開場)

モーツァルト：ピアノ協奏曲第15番 変ロ長調 K.450

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品19

ショパン：ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11

■ 料金 [全席指定]

S ¥7,500 / A ¥6,500 すみだ学割あり

トリフォニーホールチケットセンターのみ取扱

■ お申込み・お問合せ

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

トリフォニーホールチケットオンライン www.triphony.com

※オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です

すみだトリフォニーホール

JR&東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分／東京スカイツリータウン®より徒歩20分



@TriphonyHall



facebook.com/SumidaTriphonyHall

ELISSO VIRSALADZE

エリソ・ヴィルサラゼ[ピアノ]

Elisso Virsaladze, piano

グルジア(現ジョージア)の首都ティフリス(トリビシ)生まれ。代々グルジアの芸術文化に深い関わりを持つ家系に生まれ育つ。ピアノの手ほどきを、祖母のアナスタシヤ・ヴィルサラゼ教授から受けた後、モスクワへ移り、ゲンリフ・ネイガウスおよびヤコフ・ザークに師事。20歳でチャイコフスキー・コンクール3位入賞を果たし、24歳のときにシューマン国際コンクールで優勝。

モーツァルト、ベートーヴェン、ショパンなど、18世紀および19世紀後期の作品に対し深い愛着を持ち、とりわけシューマン作品のもっとも優れた解釈を行う現代の演奏家のひとりとして高い評価を得ている。また、現代の作曲家を含む、ロシア音楽の幅広いレパートリーを持ち、旧ソ連の権威ある芸術賞を多数受賞している。

ヨーロッパの主要音楽都市にて定期的にリサイタルを行うほか、ナタリア・グートマンとのデュオ・リサイタルも各地で展開している。室内楽およびサンクトペテルブルグ・フィル、ロイヤル・フィルなどのオーケストラとの共演では、北米、日本、ヨーロッパで大規模なツアーを行うほか、各地の一流オーケストラと定期的に共演している。

これまでにルドルフ・バルシャイ、キリル・コンドラシン、リッカルド・ムーティ、クルト・ザンデルリング、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、エフゲニー・スヴェトラノフ、ユリー・テミルカーノフなど、多くの著名指揮者と共演。

2017-18年シーズンはミラノ、パリ、モスクワなどにおけるリサイタル、室内楽活動とともに、ロンドンのフィルハーモニア管、サンクト・フィルなどとの共演が予定されている。

優れた教育者としても知られており、モスクワ音楽院およびミュンヘン音楽大学の常任教授を務めるほか、主要な国際音楽コンクールの審査員にしばしば招かれている。

ライブ・クラシックス・レーベルからは多くの録音をリリースしている。

with New Japan Philharmonic



©堀田力丸

アレクサンダー・ルーディン[指揮]

Alexander Rudin, conductor

1988年よりムジカ・ヴィーヴァ室内管弦楽団の芸術監督、この10年間はモスクワで毎年開催される国際音楽祭「Dedication」の芸術監督を務めている。今日のロシア音楽の解釈における第一人者というべきチェリストのひとりでもあり、モダン楽器とヴィオラ・ダ・ガンバを弾き分け、作品に応じた「歴史的に正しい」奏法にこだわる。モスクワ音楽院では室内楽の教鞭をとる。ハイペリオン、チューダー、メロディア、フーガ・リベラなどで録音多数。



新日本フィルハーモニー交響楽団

New Japan Philharmonic

1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。1997年よりすみだトリフォニーホールを本拠地とし、同ホールで日常の練習と公演を行う日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会などで高い評価を得る一方、学校・各種施設などでの地域に根ざした演奏活動も特徴的。1999年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者就任。2016年9月、上岡敏之が音楽監督に就任。

2017年11月23日(木・祝) 15:00開演(14:30開場)

■料金[全席指定]

S ¥7,500 / A ¥6,500 すみだ学割あり*

チョイス券: 3公演以上購入は1回券合計金額の15%引(Sのみ)*

対象公演 7/4 フレイシ、8/1 ゼルキン、8/29 テー・ムストロング、11/23 ヴィルサラゼ、
2018/2/10 ムストネン、2018/3/17 アンデルシェフスキ

★はトリフォニーホールチケットセンターのみ取扱い

■お申込み・お問合せ

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

トリフォニーホールチケットオンライン www.triphony.com

※オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)への登録が必要です

イープラス eplus.jp
チケットぴあ 0570-02-9999 t.pia.jp [Pコード:324-018]
ローソンチケット 0570-084-003 l-tike.com [Lコード:35028]
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
新日本フィル・チケットボックス 03-5610-3815

主催・企画: すみだトリフォニーホール

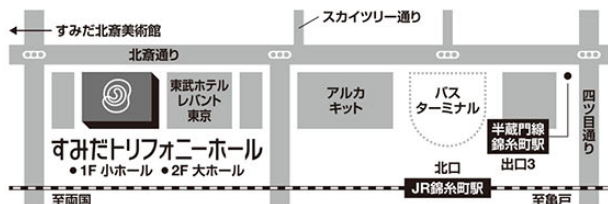
招聘制作: ジャパン・アーツ

平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 文化庁

※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。※未就学児のご入場はご遠慮下さい。



トリフォニーホール託児サービスのご案内 ※ムストネンは除く
ご予約・お問合せ: 0120-500-315 [平日10:00 ~ 17:00]
(株)小学館集英社プロダクション総合保育サービスのHAS(ハズ)



すみだトリフォニーホール

JR & 東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分 / 東京スカイツリータウン®より徒歩20分

ヴィルサラゼのその他の公演

エリソ・ヴィルサラゼ&アトリウム弦楽四重奏団
11月28日(火) 19:00 紀尾井ホール

モーツァルト: ピアノ四重奏曲第1番 短調 K.478 / ショスタコーヴィチ: ピアノ五重奏曲 短調 作品57 / シューマン: ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44 ほか

[お問合せ] 紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061